

アンケート調査報告書

Ⅰ 市民の意識調査

(1) 各調査実施概要

市民意識を把握するため、次のアンケート及びヒアリングを実施しました。

① 市民アンケート

調査対象	: 西東京市住民基本台帳に登録された 15 歳（高校生）以上の男女個人
標本数	: 1987 件（2000 件配布、13 件宛所なしにより返送）
抽出方法	: 住民基本台帳より無作為抽出
調査方法	: 郵送によるアンケート調査票の配布・回収（紙面または WEB 回答）
調査期間	: 令和 5 年 10 月 17 日（火）～10 月 31 日（火）
質問内容	: ○ 文化財全般に対する普段の意識 ○ 市内文化財や文化財に関わる取組の認知・参加経験 ○ 文化財の保存・活用を推進する為に必要な場や機能
有効回収	: 538 票（有効回収率 27.1%）

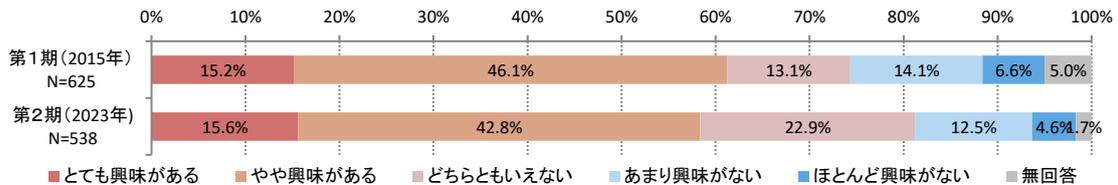
② 小・中学生アンケート

調査対象	: 市内の小・中学校に通う児童（小学校 5 年生）・生徒（中学校 3 年生）
標本数	: 595 人（小学生 258 人、中学生 337 人）
調査方法	: 学校を通して紙アンケートの配布・回収
調査期間	: 令和 5 年 10 月 17 日（火）～10 月 31 日（火）
質問内容	: ○ 文化財全般に対する普段の意識 ○ 市内文化財や文化財に関わる取組の認知・参加経験 ○ 文化財の保存・活用を推進する為に必要な場や機能
有効回収	: 563 票（有効回収率 94.6%、小学生 241 票、中学生 321 票）

(2) 市民（15歳以上）の意識調査結果

■ 市民の文化財への興味

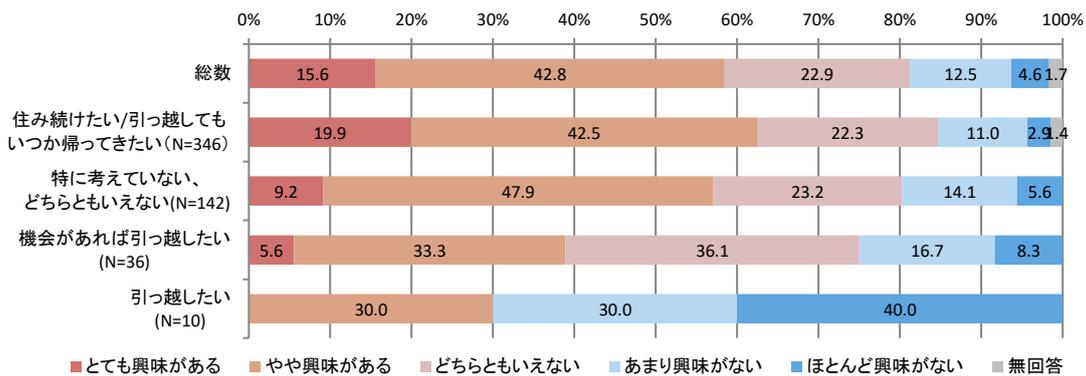
- ✓ 文化財への興味がある市民（「とても興味がある」「やや興味がある」の合計）は第1期計画策定時には61.3%に対して、本調査では58.4%とほぼ変化は見られませんでした。
- ✓ 一方で文化財への興味がない市民（「あまり興味がない」「ほとんど興味がない」の合計）は第1期計画策定時の20.7%に対して、本調査では17.1%となっており、やや減少しています。



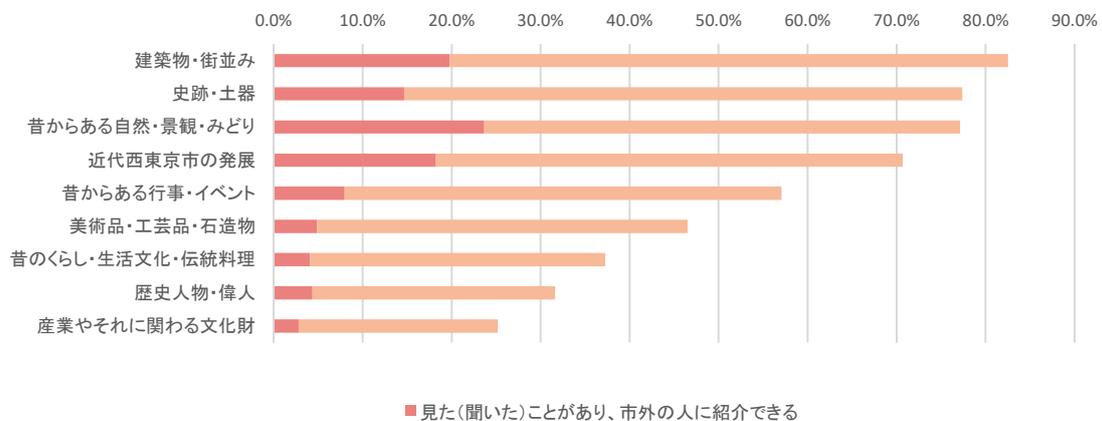
○ 属性別の分析

〈西東京市に住み続けたい市民の文化税への興味〉

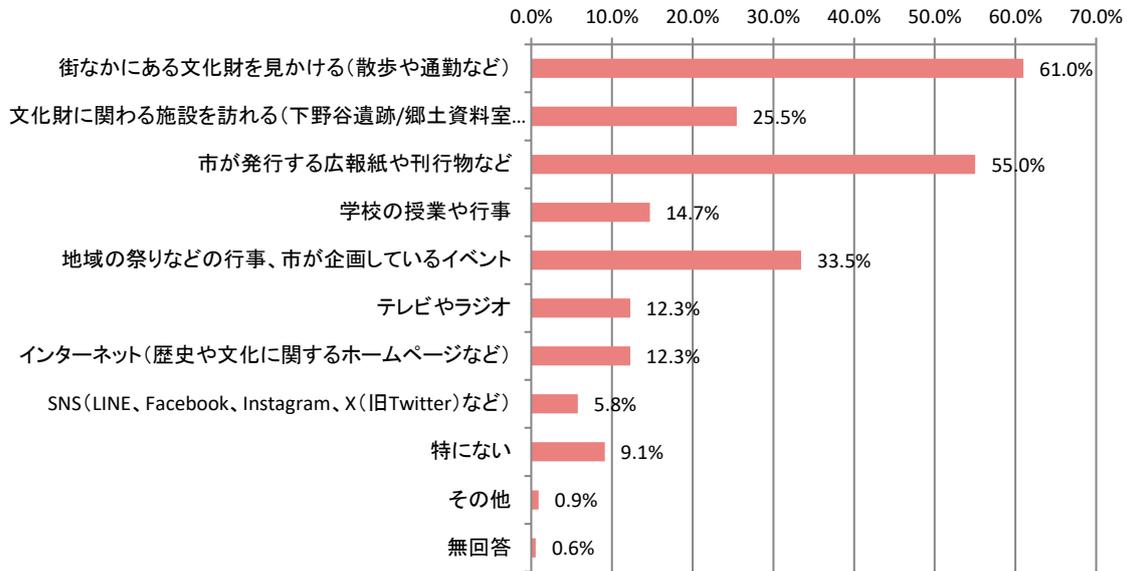
- ✓ 「西東京市に住み続けたいと思うか」と「文化財の興味」の質問をクロス分析した結果、「住み続けたい」と考えているの方が、文化財に対して興味を持っている傾向が見られました。



■ 市民が認知している文化財

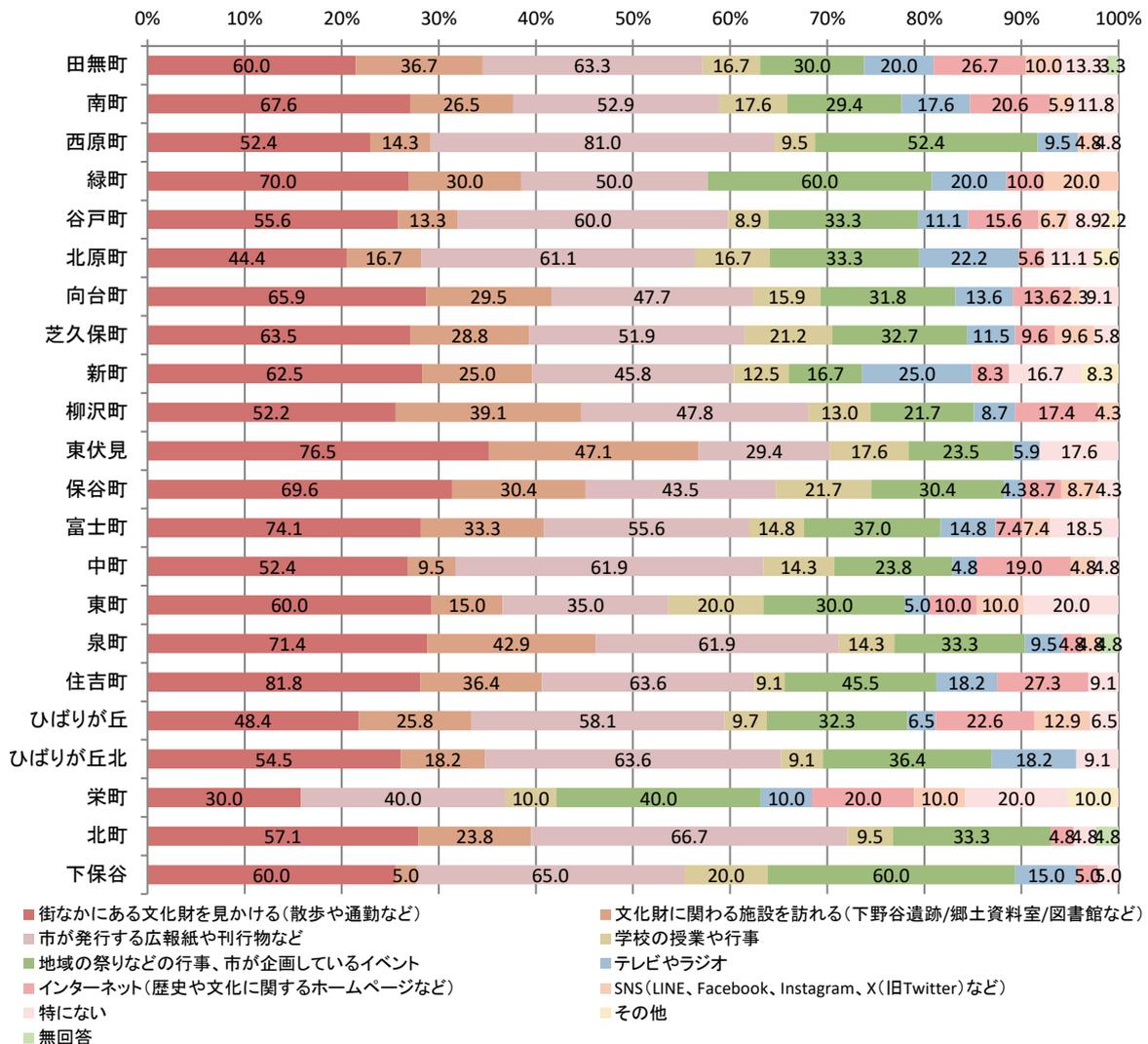


■ 市内の文化財に触れる機会



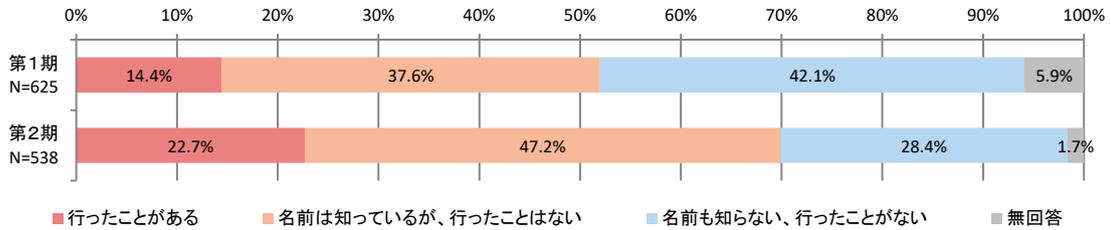
○属性別の分析

〈居住地別の文化財に触れる機会〉



■ 下野谷遺跡の認知度

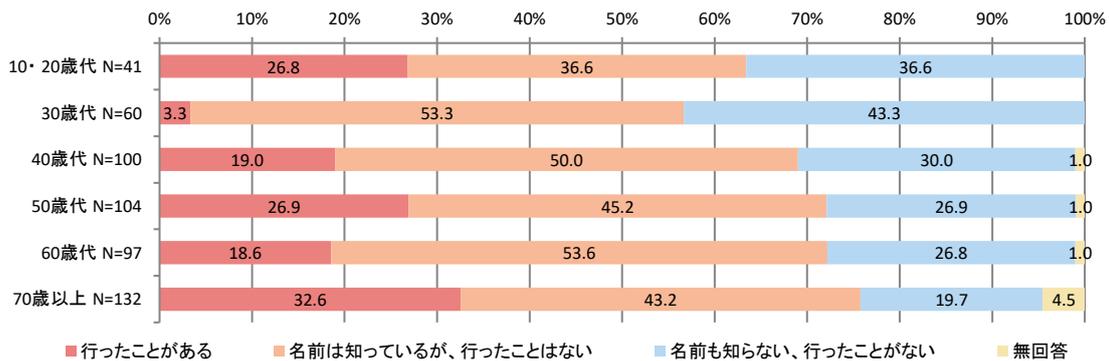
- ✓ 第1期計画策定時と比較して、本調査では認知している市民（「行ったことがある」「名前は知っているが、行ったことはない」の合計）は17.9%増となりました。



○ 属性別の分析

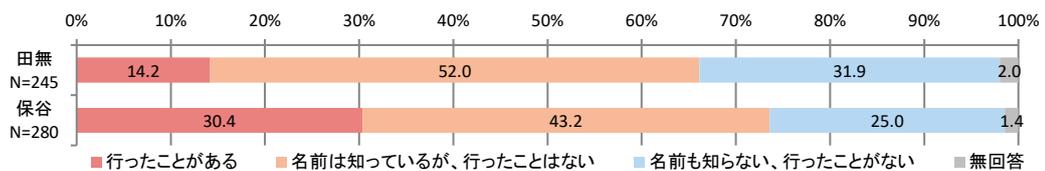
〈年代別の認知度〉

- ✓ 10・20歳代の市民は「行ったことがある」が26.8%と高くなっていました。
- ✓ 一方で30歳代の市民のみ「行ったことがある」が3.3%と突出して低くなっていました。



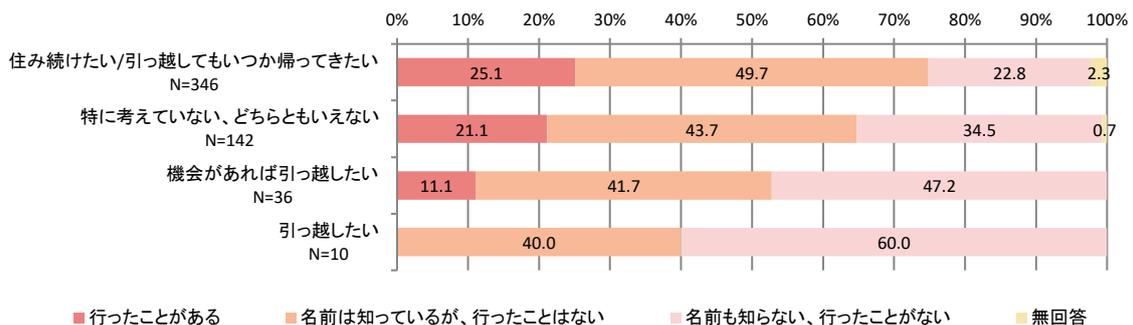
〈お住いの地域別の認知度〉

- ✓ 保谷地域にお住いの市民の来訪経験が多く、「行ったことがある」は30.4%でした。



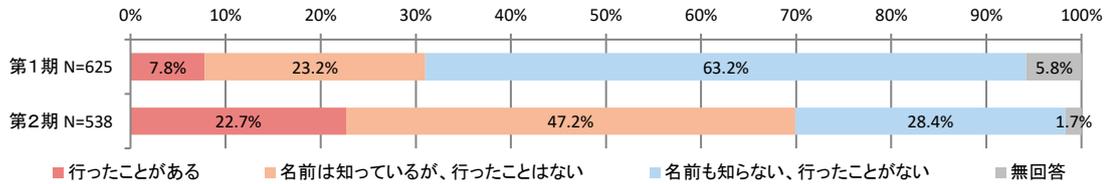
〈西東京市に住み続けたい市民の認知度〉

- ✓ 住み続けたいと思っている市民が下野谷遺跡への来訪経験が多い傾向にありました。



■ 郷土資料室の認知度

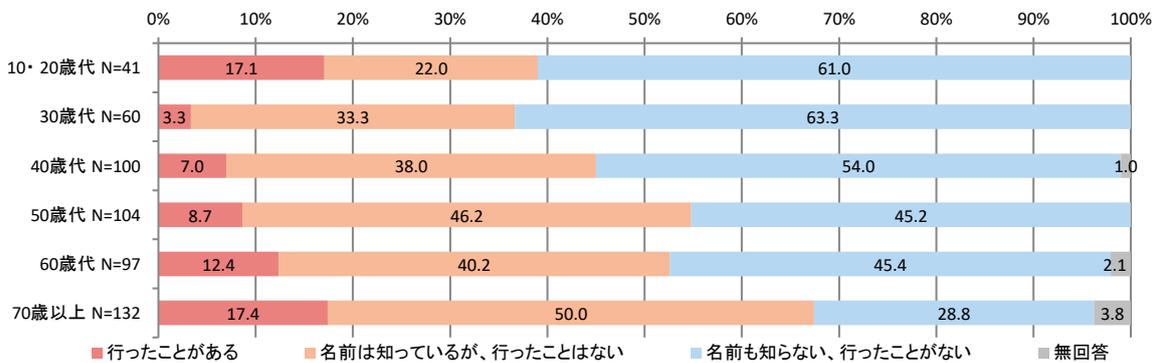
- ✓ 第1期計画策定時と比較して、本調査では認知している市民（「行ったことがある」「名前は知っているが行ったことはない」の合計）は39%増となりました。
- ✓ 一方で「行ったことがある」市民は22.7%と、市民の方の来訪経験はまだ少ないといえます。



属性別の分類

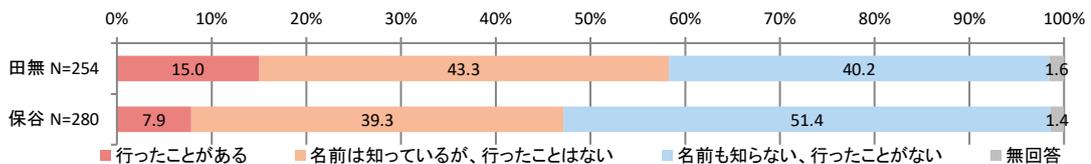
〈年代別の認知度〉

- ✓ 10・20歳代の市民は「行ったことがある」が17.2%と高く、30歳代以降は高齢になるほど「行ったことがある」市民が増加する傾向が見られました。



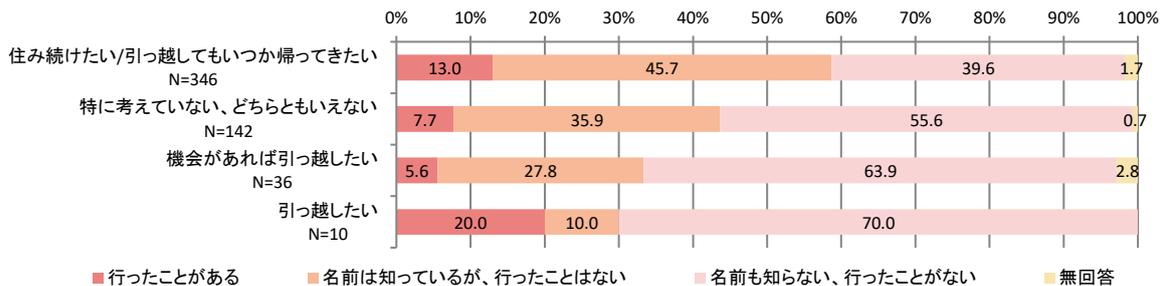
〈お住いの地域別の認知度〉

- ✓ 保谷地域にお住いの市民の来訪経験が多く、「行ったことがある」は15.0%でした。

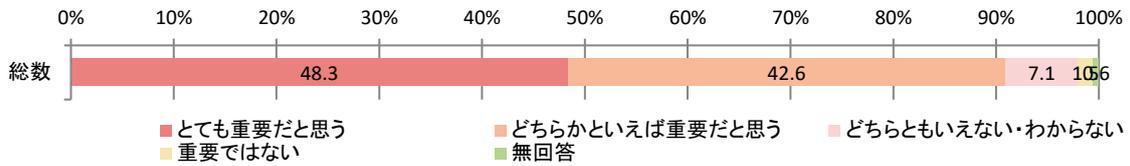


〈西東京市に住み続けたい市民の認知度〉

- ✓ 住み続けたいと思っている市民が郷土資料室への来訪経験がやや多い傾向にありました。

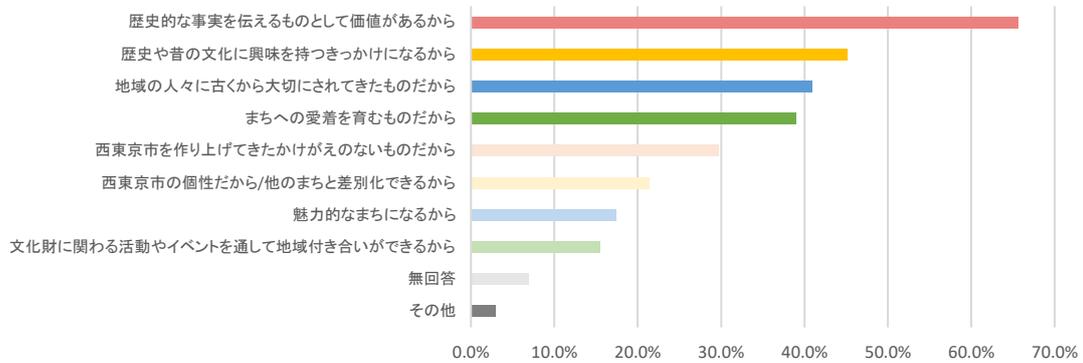


■ 文化財を守り大切だと思いますか



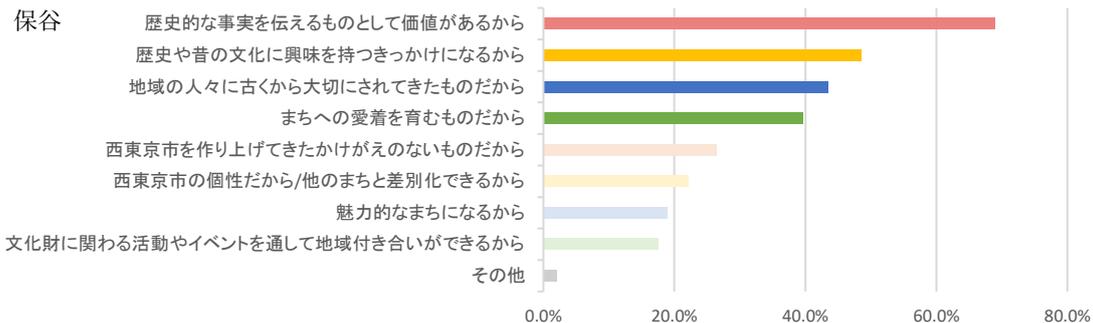
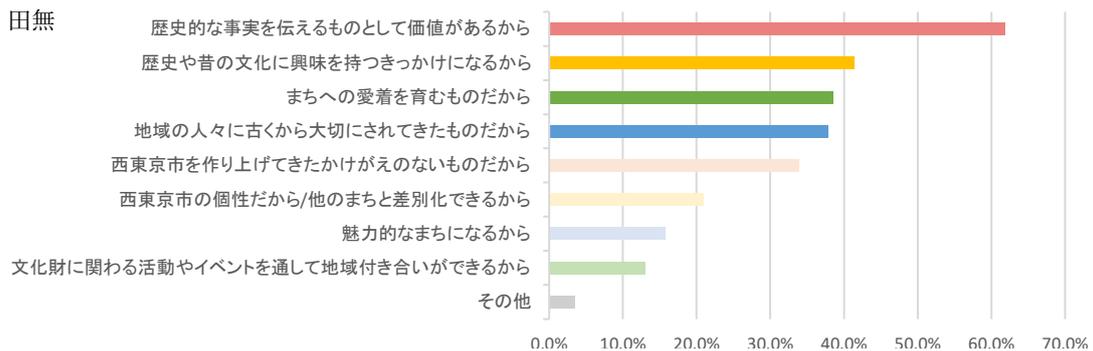
■ 文化財を保存することの意味

- ✓ 「歴史的な事実を伝えるものとして価値があるから」「歴史た昔の文化に興味を持つきっかけになるから」といった歴史・文化を学ぶ為に保存する必要があると考えている市民が多くみられました。
- ✓ 一方で「魅力的なまちになるから」「文化財に関わる活動やイベントを通して地域付き合いができるから」といった項目の回答割合が低く、文化財を守ることで、生活の豊かさや、暮らしやすさに寄与している、と感じている市民は少ないといえます。



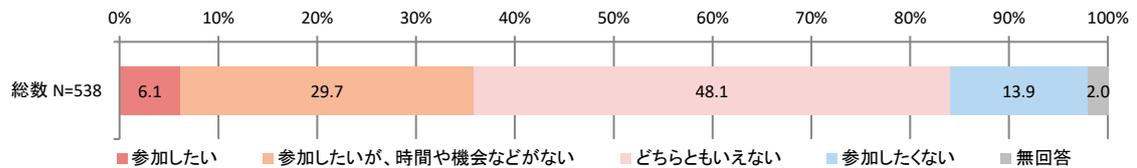
属性別の分類

〈居住地域別の文化財を保存することの意味〉



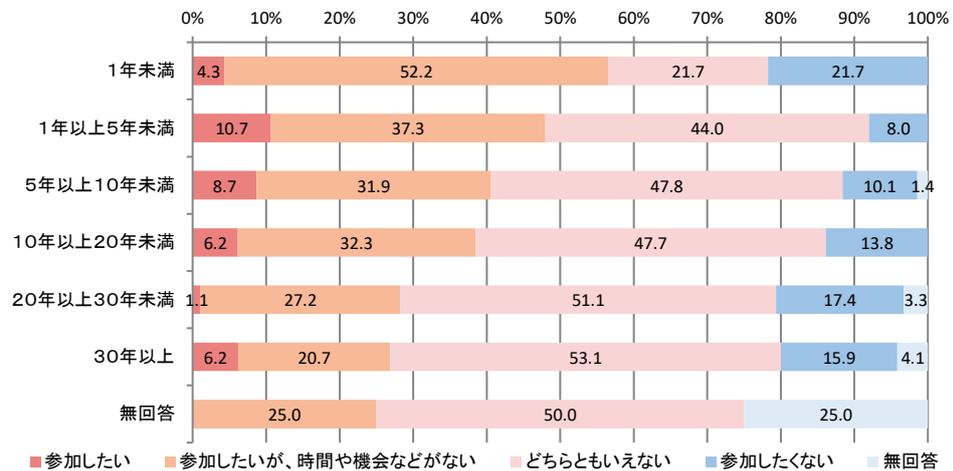
■ 文化財に関わる活動に参加する意思

- ✓ 参加したいと考えている市民（「参加したい」「参加したいが時間や機会がない」の合計）は36.8%と3割を超えています。
- ✓ 一方で「参加したいが時間や機会がない」が29.7%と多く、文化財活動への市民参加のハードルを解消していく取組が求められているといえます。

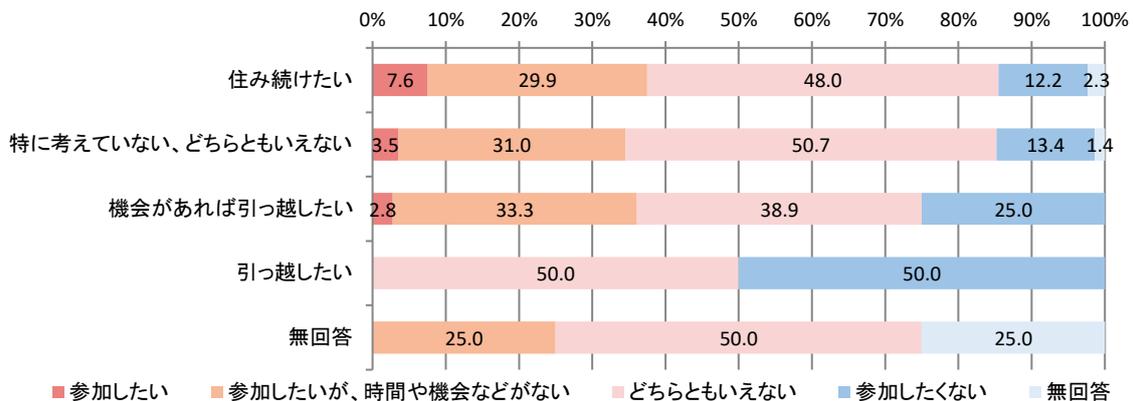


属性別の分類

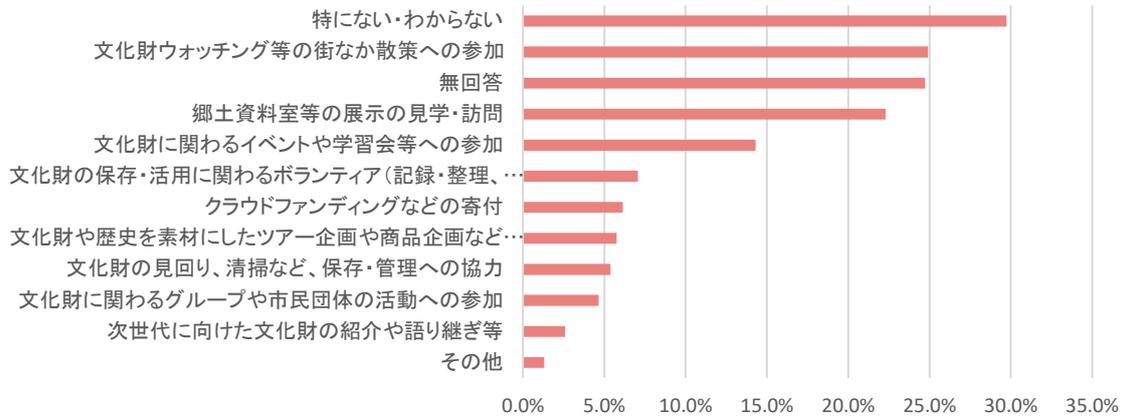
〈居住年数別の文化財に関わる活動に参加する意思〉



〈西東京市に住み続けたい人の文化財に関わる活動に参加する意思〉

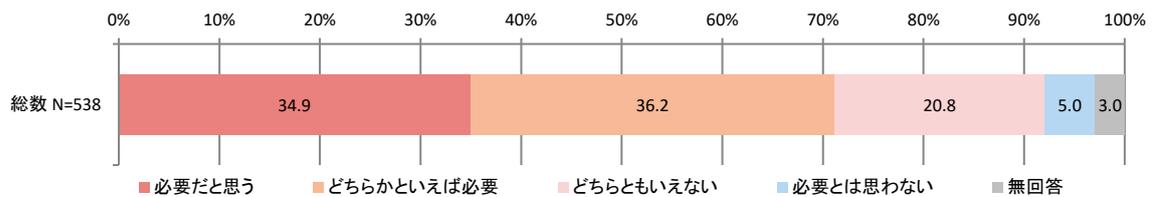


■ 市の歴史や文化財等の保存・活用について関わってみたい活動



■ 文化財の保存活用を推進する為の場や機能について

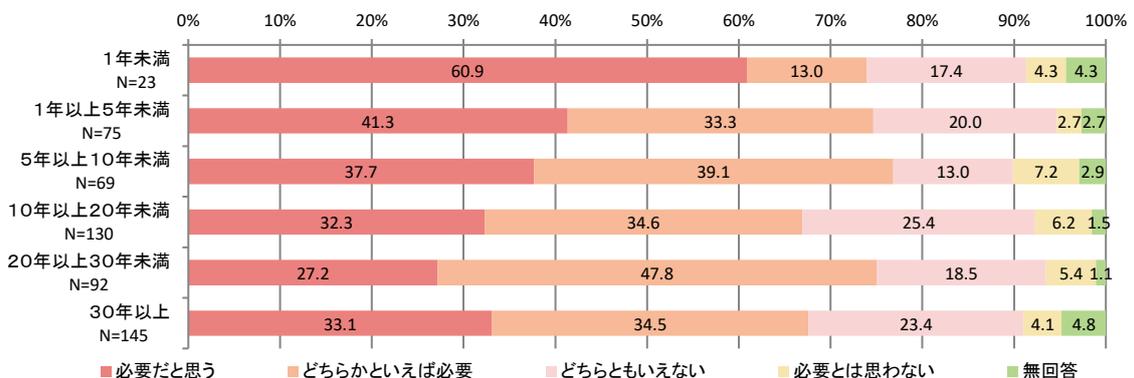
- ✓ 文化財の保存活用を進める博物館のような場が必要だと感じている(「必要だと思う」「どちらかといえば必要」の合計)は71.1%となっていました。



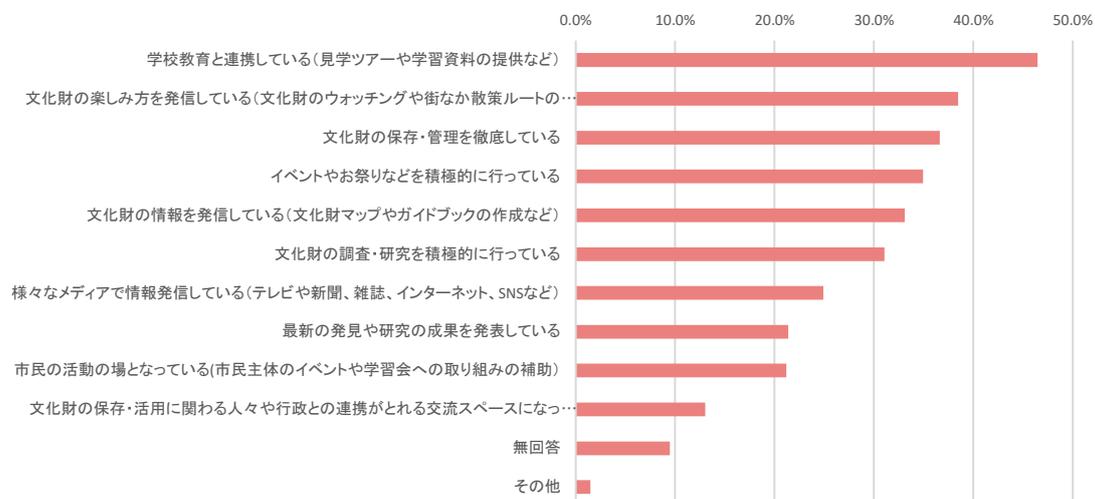
属性別の分類

〈居住年数別〉

- ✓ 居住年数が少ないほど、博物館のような場を必要としている傾向が見られており、移住者は、市の歴史文化を学ぶ場や文化財に関わる活動に興味を持っていることが伺えます。



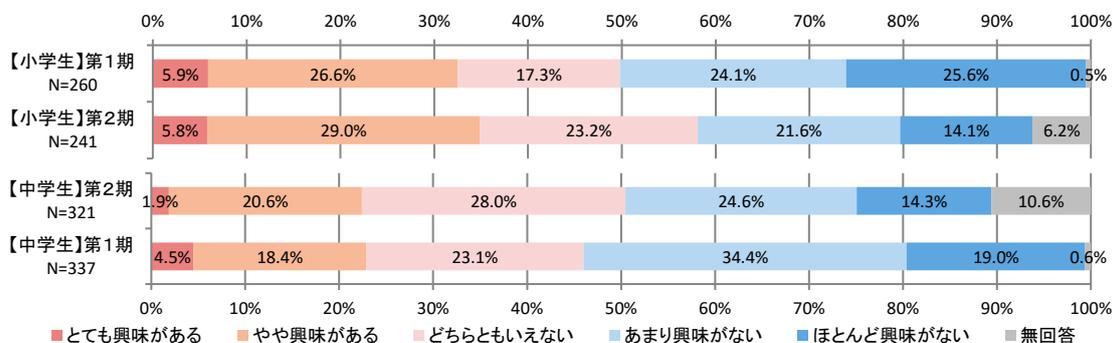
■ 魅力を感じる博物館の要素について



(3) 小学生・中学生の意識調査結果

■ 小中学生の文化財への興味

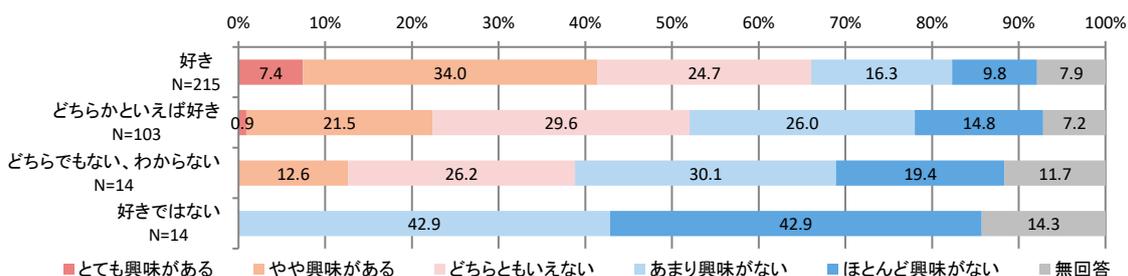
- ✓ 小中学生ともに文化財に興味がある学生（「とても興味がある」「やや興味がある」の合計）はほぼ変化が見られず、小学生の34.8%、中学生の22.9%が文化財に興味を持っていました。



属性別の分類

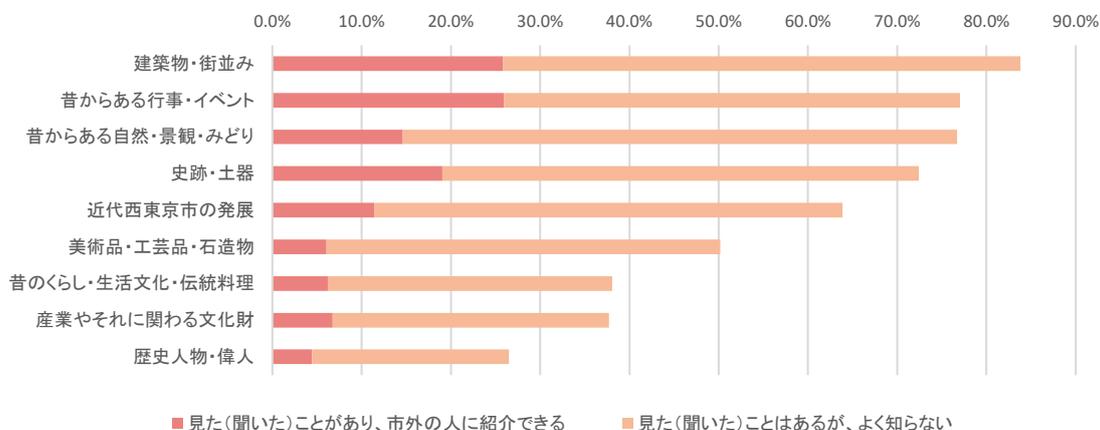
<西東京市を好きな小中学生の文化財への興味>

- ✓ 西東京市を好きと答えた小中学生の方が、文化財への関心が高い傾向が見られました。



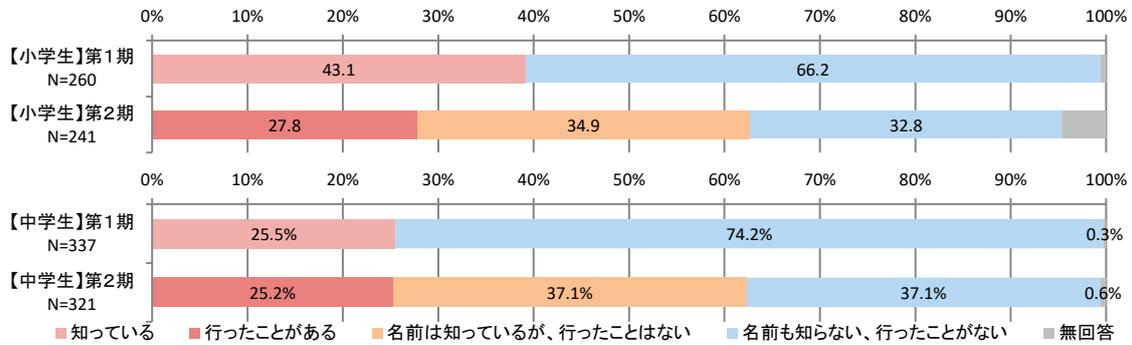
■ 小中学生が認知している文化財

- ✓ 「昔の暮らし・生活文化・伝統料理」「産業やそれに関わる文化財」など、西東京市の生活や産業に関わる文化財への認知度が低かった。



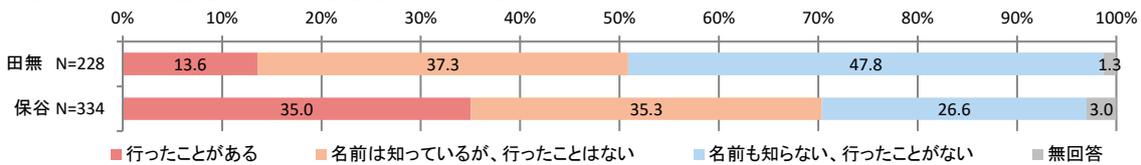
■ 下野谷遺跡の認知度

- ✓ 小中学生共に、下野谷遺跡の認知度（「行ったことがある」「名前は知っているが、行ったことはない」の合計）が上がっており、小学生は 43.1%から 62.7%に 19.6%増、中学生は 25.5%から 62.3%に 37.4%増となりました。



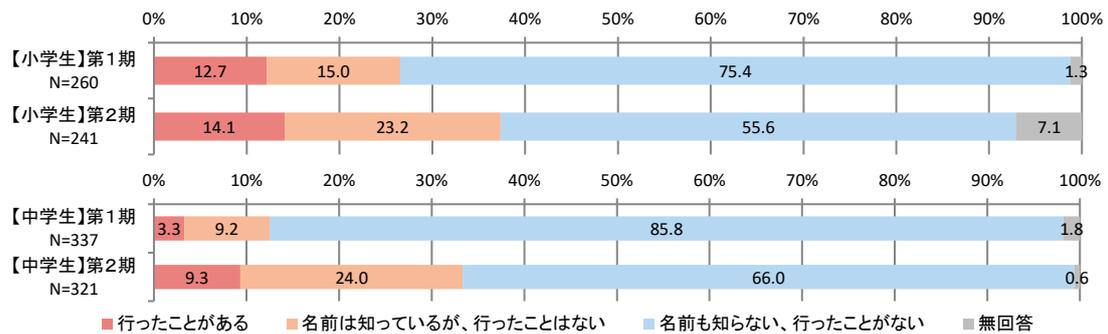
属性別の分類

〈小中学校の所在地別、下野谷遺跡への来訪経験〉



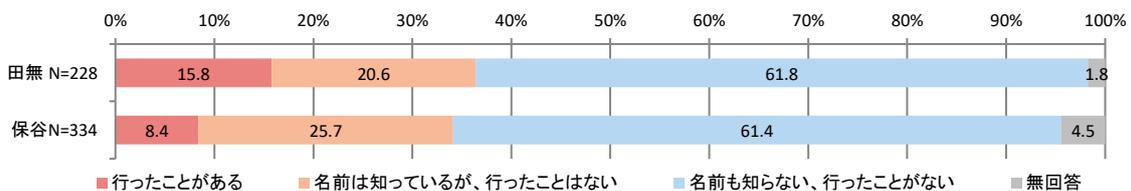
■ 郷土資料室の認知度

- ✓ 小中学生において、郷土資料室の認知度（「行ったことがある」「名前は知っているが、行ったことはない」の合計）は上がっているものの、「行ったことがある」は、小学生は 12.7%から 14.1%、中学生は 3.3%から 9.3%と大きな変化は見られませんでした。

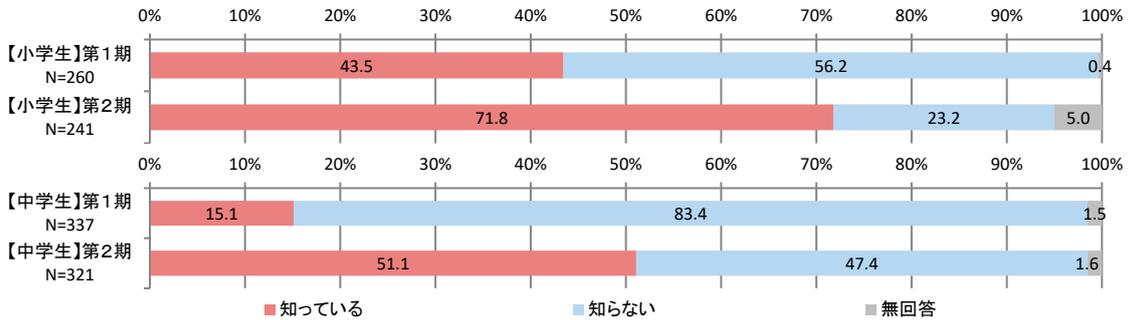


属性別の分類

〈小中学校の所在地別、下野谷遺跡への来訪経験〉



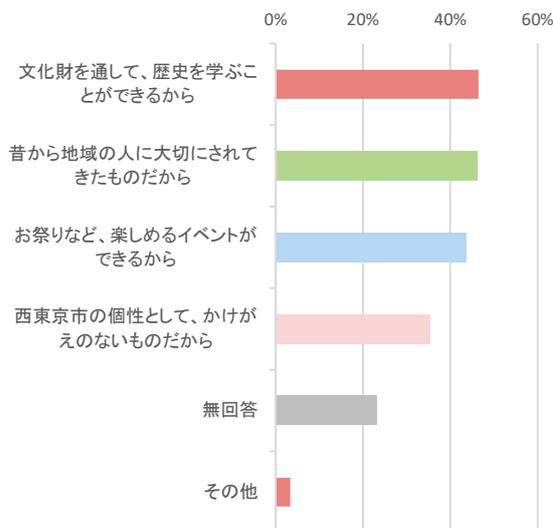
■ しーたとのーやの認知度



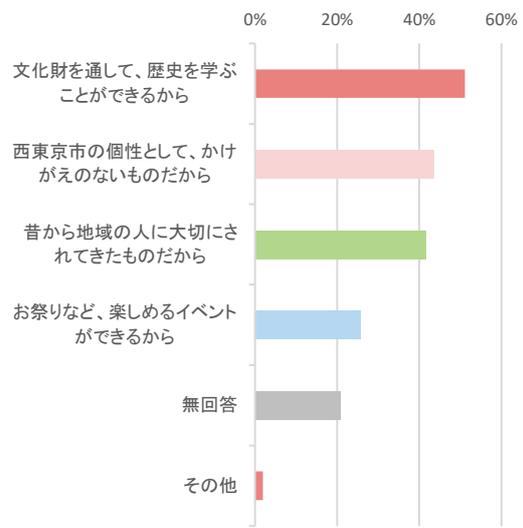
■ 文化財を保存することの意味

- ✓ 小中学生共に「文化財を通して歴史を学ぶことができるから」の回答が最もを置く 4 割を超えていました。
- ✓ 小学生では次いで「昔から地域の人に大切にされてきたものだから」が高く、身の回りの大人たちの文化財への思いから文化財の保存の大切さを学んでいると考えられます。

小学生



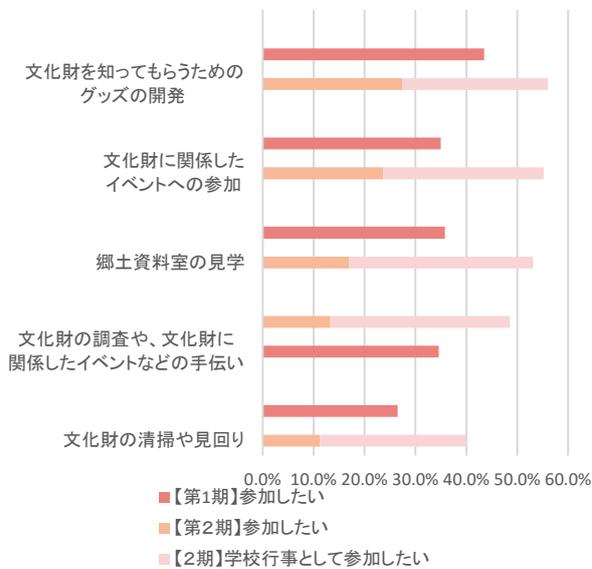
中学生



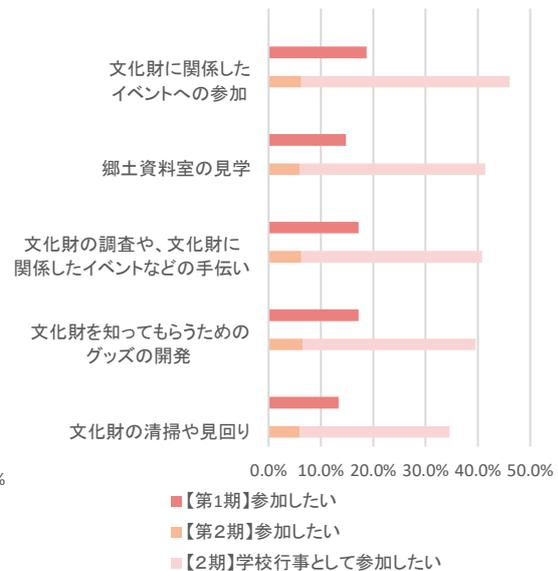
■ 参加してみたい活動

- ✓ 小学生が最も参加してみたい活動は「文化財を知ってもらうためのグッズの開発」となっており、歴史・文化に関連するアウトプットの間が必要とされているとも考えられます。
- ✓ 中学生においてはすべての項目において「参加したい」が1割を切っている一方で「学校行事として参加したい」が3割と高く、学校教育での歴史文化学習の重要性が伺えます。

小学生



中学生



■ 文化財の保存活用を推進する為の場や機能について

- ✓ 博物館のような場や機能が必要だと考えている学生（「必要だと思う」「どちらかといえば必要」の合計）は小中学生共に、約7割となっている。

